

フードバンク関西ニュース 2015年3月7日 第31号

フードバンク関西は企業から寄贈された食品を 支援を必要とする人達を支える非営利団体に 無償で分配する活動をしています。 2015年3月7日発行 認定特定非営利活動法人 フードバンク関西

事務所 芦屋市呉川町1-15
TEL/FAX 0797-34-8330
e-mail foodbank05@yahoo.co.jp
URL http://foodbankkansai.org/

「子ども元気ネットワークひょうご」をスタートします

少子化が叫ばれる中、次代を背負う大切な子どもたちの16%つまり6人に1人が衣食の足りない貧しい環境の中にいることが分かりました。「これは待ったなし、何か行動しなくてはいけない!」との思いから、女性と子ども支援の活動をするNPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ、衣服や生活用品のチャリティショップを運営するNPO法人フリーヘルプ、企業などから寄付された食糧を要支援者に分配する事業を行う認定NPO法人フードバンク関西が協働して、「子ども元気ネットワークひょうご」を始めます。このネットワークは、18歳までの子どもを抱えているワーキングプアの母子家庭を対象に物心両面の支援を行い、子どもたちの健全な成長を応援します。

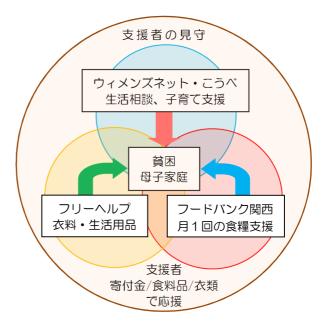
まず、困窮する母子家庭の情報を持つウィメンズネット・こうべが要支援対象家庭を会員登録し、会員が自立できるまでの間、フードバンク関西が月1回の食糧支援、フリーヘルプが3カ月に1回衣服と生活用品の支援、ウィメンズネット・こうべが4カ月に1回交流会を開催して生活に必要な情報や相談、親睦の機会を作ります。会員は支援を受けることで孤立から脱し、そこに集う仲間との交流を通して互いに支え合って、自立への意欲を強めることを目的とします。

1人でも多くの子どもたちに、安心できる暮らしの中で健やかな成長を遂げて欲しい。スタート時は支援の輪も小さいですが、皆様からのご協力を得て、少しずつ輪を大きくしていきたいと考えています。

私たちと一緒に、子どもたちの健やかな成長を応援しませんか。この事業を成功させるために、皆様からの寄付金、お米、レトルト食品、缶詰、お菓子、文房具などの寄付をお待ちいたします。 (浅葉)



楽しみに待っていたフードバンクの車に 駆け寄り、お手伝いをする子どもたち



第2回「食のセーフティネット」研修会を開催しました

フードバンク関西は、企業や個人の皆様から寄贈された食品を、ボランティアの手によって、支援を必要とする福祉施設・団体約100カ所に届けておりますが、さらに、一時的に困窮する一般市民への緊急食支援の仕組みとして「食のセーフティネット」事業を行政との協働により立ち上げ、3年が経過しました。昨年に引き続き、第2回食のセーフティネット実務者研修会を2015年1月20日(火)、あしや市民活動センター・リードあしやにて開催しました。

参加者は、既にフードバンク関西と協定を結び、活動中の尼崎市、芦屋市、西宮市、伊丹市、川西市の各行政および社会福祉協議会(社協)、そして現在参加を検討している宝塚市および社協、神戸市東灘区、灘区、中央区、長田区、垂水区、西区、北区の社協、さらに兵庫県および姫路市の社協の皆様36名、オブザーバーとして企業の方2名、フードバンク関西のボランティア12名の総勢50名で、前回を大きく上回りました。

今回も関西大学社会学部教授松原一郎先生に議事進行をお願いしました。最初に、活動を既に開始している5市からの活用報告がありました。食品提供件数は平成25年度165件に対し平成26年度(4月~12月)は既に196件に達しています。現在の食支援は、生活保護受給決定後、保護費を受給するまでの2~3週間のつなぎ食糧としての提供が中心ですが、この4月からの生活困窮者自立支援法の施行に伴い、今後、生活保護を受けていなくても食支援を必要とする多くの人々の支援へとシフトし、食品提供件数の増加が予測されます。

生活困窮者自立支援法とは、生活困窮者のための相談窓口が全国に設置され、自立相談支援、住居確保給付金の支給、就労準備支援、家計相談支援、就労訓練、生活困窮世帯の子どもの学習支援、一時生活支援などの事業を通して一人ひとりの状況に合わせた支援プランを作成し、専門の





近隣の市や社会福祉協議会を中心に50名の皆様が集まった研修会の様子

支援員が相談者に寄り添いながら、他の専門機関と連携して、解決に向けた支援を行う制度です。フードバンク関西は、この制度のもとで各市が行う新事業にフードバンク関西からの食支援を重ねることで実効性を上げられるのではないかという思いから、要請があれば対応することを提案しました。

最後に、フードバンク関西は、各市が保管している災害備蓄用食品を賞味期限内で有効活用することによって各市の食のセーフティネットとして十分に役立つことを提案しました。既に実施している市もあり、各市ともに検討することになりました。

今回、市ならびに社協の方々がたくさん参加されたことから、食のセーフティネット事業への関心の大きさを改めて認識し、安全で美味しく、かつバラエティに富んだ食品を安定的に集め、必要なところへ供給することができるようフードバンクのシステムをより充実させていくことの大切さを痛感しました。

小学生向け食育講座「もったいない!食べ物を大切に」ができました!

フードバンク関西のコア事業は、様々な理由で破棄されるまだ安全でおいしく食べられる食品を企業や個人から預かり、支援を必要とする団体のもとへ届けることです。しかし、一方で、活動理念である「食べ物は命の糧、大切にしよう」ということを一般の方々に広めていくことも大切な活動の一つではないかと考えます。特に飽食の時代に育った学生などにフードバンク活動について話をすると、「食べ物は大切なんだ」という意識がとても薄いと感じ、若い人たちや子どもに対する「食育」の必要性を実感します。そこで、フードバンク関西として子どもを対象とした食育プログラムの開発に取り組もうと、食育担当メンバーを募りました。

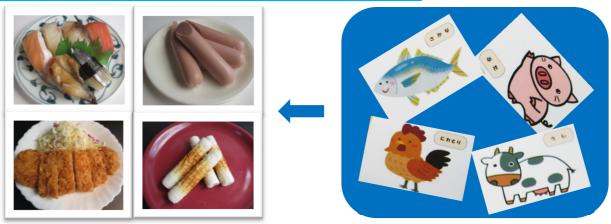
しかし、ボランティアは日々の活動で目いっぱいの上にプログラムを作るノウハウもありません。そこで消費者教育の出前講座を開発実施しているNPO法人C・キッズ・ネットワークと協働で作業することとなりました。兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランタリー基金からの助成金も獲得し、平成26年4月から毎月1回、フードバンクの食育メンバーとC・キッズのメンバーが会合を持ち、メールでやり取りしながらプログラムを作成していきました。

実際にまだまだおいしく食べられるのに捨てられるたくさんの食べ物を目の当たりにしているフードバンクと、子どもに効果的に伝えていくための手段の教材開発に多くの経験をもつC・キッズ・ネットワークが情報を出し合い、補い合いながら、ようやく低学年向け講座「もったいない!食べ物を大切に」が完成しました。

講座の中身は、ゲームやクイズ、パネルシアターなどで、楽しく参加できて自然に「食べ物は大切だから捨てないようにしよう」という気持ちになれるものになっています。具体的には次のようなプログラムがあります。

1. カードゲーム「ルーツをさがそう! あなたはだーれ?」

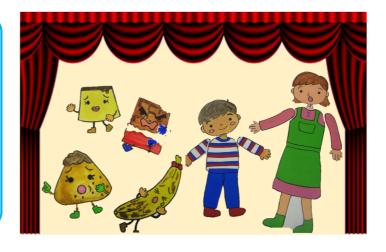
「これらの加工品はどの生き物からつくられているかわかるかな?」



2. ゴミ袋シアター「ぼくたちを捨てないで!」

子どもたちに配るカード

ストーリー: ある日、ゴミ捨てのお手伝いを頼まれた男の子。ゴミ袋を運んでいると、袋の中からおまけだけ取って中身を捨てられたチョコレートや、腐ってないのに黒く変色しただけで捨てられたバナナ、大袋で買って食べ残したポテトチップスなどが飛び出てきて、怒りだす。それを聞いた男の子とお母さんは、これまでの行動を反省し、食べものを大切に、捨てないようにすることを約束します。



3. 「どうして捨てられたの?」クイズ

「これらの食べものは、まだまだおいしく食べられるのに捨てられてしまいます。 どうしてかわかりますか?」



4. フードバンク関西の活動の紹介とフードバンク関西の扱う食品の試食

今後、C・キッズ・ネットワークもこの講座を学童保育などの場で実施していきますが、フードバンク 関西としてもメンバーで練習を重ね、イベントなどで講座を行い、「もったいない!食べ物を大切にしよう!」というメッセージを広げていきたいと思います。興味のある方はぜひご連絡ください。(中島)

「第6回ラッフルキルト」を開催しました

昨年末、恒例の「ラッフルキルト」を開催し、企業や個人の皆様から多くのご支援をいただきました。 その抽選会を12月5日(金)、神戸トーアロードの THE PLACE KOBE で行いました。5年前、米国 大阪総領事夫人の呼びかけによりキルトが制作され、キルトが特賞として当たるラッフルチケットを販売 したことがきっかけとなり、毎年クリスマスの季節に開催され、今回で6回目になりました。

キルト作家の井上美智子さん、キルトリーダーズ兵庫の作家有志の皆様によって心を込めて制作されたキルト作品、常々フードバンク活動にご理解を持ち、食品を提供くださっているケンミン食品、トーラク、とよす、中島大祥堂、日仏商事、ネスレ日本、ハインツ日本等の企業、さらにラッフルキルトに協賛してくださった ANA クラウンプラザホテル神戸、ヒルトン大阪、インターコンチネンタルホテル大阪、ハイアッリージェンシー大阪、神戸のチキンカレー専門店「two of us」などから提供していただいた沢山の心のこもった品々が 209 本の賞品となりました。皆様に6枚綴りのラッフルチケット559組を購入していただき、55万9千円をラッフル寄付として受領させていただきました。フードバンク関西の運営費として大切に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

今年もクリスマスの頃に第7回ラッフルキルトを開催しますので、どうぞお楽しみにしてください。



ちょっぴりリッチな抽選会場



キルトリーダーズ兵庫の皆様が制作されたキルトを 当法人が食品を届けている福祉施設の中から抽選で 母子生活支援施設にお贈りしました。

編集後記

昨年末、滋賀県の浄土宗のお寺からたくさんのお米をいただきました。お米は需要が多く、一番不足しており、たいへん助かっています。滋賀県の浄土宗では、5年前から近江米(こめ)一升運動に取り組んでおり、県内の浄土宗480余りの寺院のご本尊にお供えされたお米を福祉施設などへ送り、フードバンク関西にも寄贈くださっています。これは、宗派を問わずお米を入れてお寺に持って行くためのお仏供米(ぶくまい)袋というものがあり、娘さんが結婚する折には必ず持たせるという信仰厚い米どころである滋賀県ならではの活動だと思います。中外日報という仏教関係の新聞に佛教大学の大谷栄一氏が、近江米一升運動はフードバンク関西というNPO団体と協働し、諸地域の貧困問題の改善に対してコミットしていることから、こうした営み自体が宗教者の社会活動の新しい方向性を示唆しており、今後、宗教者や宗教施設に求められているのは、地域社会をつくるとともに、地域社会をつなぐ役割だと述べておられます。このようなフードバンク活動の様々なところでの広がりを心強く思います。 (井上)

余った食べ物を預かって、必要なところに届けます

特定非営利活動法人フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL/FAX 0797-34-8330 e-mail foodbank05@yahoo.co.jp URL http://foodbankkansai.org/

寄付のご送金方法 郵便振替口座 00940-4-221867 口座名義 特定非営利活動法人フードバンク関西



フードバンク関西の事業は「赤い羽根共同募金」 の助成を受けて実施しています。